

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち



April						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
						30

April 2023 vol.108

◆ 小林村変地之図

所在地：静岡県沼津市大岡（震災追弔之碑）

交通：JR 御殿場線「大岡」駅北約 1.5km

嘉永7（1854）年11月4日の安政東海地震は、遠州灘を震源とする南海トラフの地震で、被害は伊豆半島から熊野灘沿岸一帯、山梨・長野・滋賀・福井・石川県にまで及び、伊豆から伊勢志摩、熊野灘にかけては津波も到達して、広範囲で甚大な被害がもたらされました。静岡県の沼津では震度6の揺れとともに3～4mの津波が到達したとされ、沼津城や城下で大きな被害が発生しました。

沼津藩の祐筆（藩主に侍して文章を書く役職）であった山崎継述は、安政東海地震の記録を「嘉永七甲寅歳地震之記」に残しています。この記録には、継述が沼津城内で地震の揺れに遭遇した時の状況や、城下の被害が詳細に記され、被害の様子を描いた絵図も残されています。

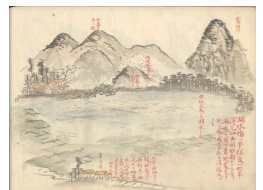
絵図の一枚が「小林村変地之図」と題されるものです。この絵図には、沼津城下の小林村の大規模な陥没災害が描かれており、添えられた文章によれば、沼津城から一里北東にある小林村で12軒の家が土地の陥没により地面に飲み込まれ、9人が犠牲となり、うち2人は発見できなかったこと、陥没の範囲は、幅50間（約90m）、長さ2町（約220m）、深さ4～5丈（約12m～15m）に及んだことがわかります。小林村があった場所には、50年後の明治36（1903）年、地震による犠牲者の慰霊と災害を後世に伝えるために震災追弔之碑が建てられています。



震災追弔之碑
(出典は右記)

城下の被害の様子については、「田地変ジテ湖水トナル」と題された絵図もあります。絵図の場所は、現在の沼津市下香貫のあたりと推定され、地震後に幅1町（約110m）、長さ1町半（約160m）、深さ4～5間（約7～10m）程の湖水が出現した様子が描かれています。湖水は、地震によって地盤が沈下したところへ、海岸から押し寄せた津波がたまってできたものであるとされ、これを示すように、明治20（1887）年の国土地理院地図「沼津」には、2つの池を確認することができます。なお、2つの池は、明治28（1895）年に修正された地形図からはなくなっており、この間に埋め立てられた可能性があります。

嘉永七甲寅歳地震之記の記述は、沼津城内、千本松原、三島宿、下田など広範囲にわたっており、安政東海地震による被害の様子が観察眼鋭く描かれています。また、小林村の陥没災害や下香貫とされる湖水の絵図などは、実際にその場所に足を運んで描いたものと考えられ、継述はその優れたジャーナリスト感覚により、貴重な災害の記録を後世に残しています。



(上) 小林村変地之図
(下) 田地変ジテ湖水トナル
沼津市明治史料館提供
嘉永七甲寅歳地震之記より

中部災害アーカイブス「地震・津波の痕跡、教訓から学ぶ」の記事 (http://www.cck-chubusaigai.jp/jishin_syousai.php?id=6) もぜひ併せてご覧ください。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

●世直双紙(尾張七ツ寺ほか)(vol.14,2015.6)

所在地：名古屋市中区大須

交通：地下鉄名城線「上前津」駅西約600m

1819年文政近江の地震は文政2年6月12日未の下刻頃(15時頃)、近江国(滋賀県)を震源に起きた内陸の地震です。この地震における名古屋を中心とした地域の被害の様相を記録した史料に、尾張藩士の猿猴庵が挿絵入りで執筆した『世直双紙』という史料があります。猿猴庵は、江戸初期から尾張徳川家に仕えた高力家の7代目にあたり、藩士としての勤めを果たす傍ら、画家兼文筆家としても活躍した人物です。

世直双紙には、「八、九十年このかた聞いたこともないこの大地震について、後世に伝えるために自分が実際にした被害だけではなく、耳にした話や他県の被害についてもまとめて書き残す。」と記されており、「熱田神宮は揺れ

ず、地震のときに参拝していた人たちは気づかず、町に出て来て初めて大地震を知って驚いた」など、名古屋を中心とした被害の情報を克明に記録しています。

また、被害の様子を描いた挿絵も豊富で、「高い塀、練り塀ともに破損したが、特に練り塀が多く崩れた。かばやき町堀切筋横三蔵や、若宮八幡宮北の練り塀も多く崩れ、残骸が山のようになった」様子や、「はじめは南北に揺れていたが後には回転するように揺れ、近くの店の者は非常に驚いた」七ツ寺の塔の様子(下図)など、被害を視覚的に伝えるビジュアル災害誌ともいえるものとなっています。この世直双紙は当時著名な貸本屋・大惣の商品であり、流行本を取り扱う貸本屋が災害の記録を出版していたことも興味深い点です。



愛知県史別編 自然より

◆詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.14 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★大瀬まつり・内浦漁港祭

大瀬まつり・内浦漁港祭は、駿河湾に春の訪れを告げる天下の奇祭で、毎年4月4日に開催されます。

大瀬まつりは大瀬神社の例祭で、大漁旗で飾り立てられた踊り船に女装した青年たちが乗り込み、遠くは蒲原・由比、近くは静浦・内浦など多くの地区から大瀬神社へ参拝に出港します。青年達が「チャンチャラオカシ」のお囃子に合わせて賑やかに勇み踊りを踊るところから、天下の奇祭と称されます。

内浦漁港祭では、大瀬神社に参拝した踊り船が漁港に集まり、祭りばやしがり鳴り響く中、賑やかな船団パレードが行われます。地場産品の物販や福引きなどもあり、地元の高校生による和太鼓やバトンの演技も行われます。

当日は大瀬参り参拝船が出航し、船上から観覧することもできます。



大瀬海浜商業組合 HP より

～鉄道で巡る～

御殿場線は、静岡県沼津駅から神奈川県国府津駅を結ぶ、JR東海が管轄する最東端の在来線です。明治22年開業当初は東海道線の一角を担っていましたが、昭和9年に熱海と三島を結ぶ丹那トンネルが開通し、支線となりました。

松田駅から御殿場駅には小田急線のロマンスカー(特急列車)ふじさん号が直通で乗り入れをしています。

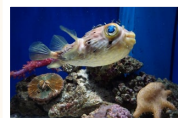
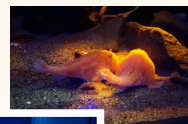


●ブレイクタイム●

♪沼津港深海水族館～シーラカンス・ミュージアム～

沼津港深海水族館～シーラカンス・ミュージアム～は、水深2,500mと日本一の深さを誇る駿河湾に生息する深海生物を中心に、常時100種以上の深海生物を展示する、世界で唯一の深海に特化した水族館です。

世界中でここでしか見ることのできない冷凍保存のシーラカンスの展示や、メキシコの深海に棲む世界最大のダンゴムシの仲間、ダイオウグソクムシの展示など、他の水族館とは違った、貴重な展示物に出会うことができます。(年中無休、通常の営業時間は10:00から18:00)



◆この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ(<https://www.saitoseeing2020.jp/>)をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年4月)

